

性感染症サーベイランス運用ガイドライン（案）

平成 22 年 1 月 22 日

保健所の対応（案）・・・・・・・・

➤ サーベイランスデータの意味と限界について

■全数報告疾患の場合

たとえば、梅毒の届出件数で、医療機関からの年間届出数が 0 である場合は、医師が必要な届出を行っていない可能性があり、発生状況が過小評価されている可能性があります。全部の医師がすべてをきちんと届けでているか、という問題が常にあります。

■定点報告疾患の場合

報告数は、定点医療機関の選定に大きく左右されます。受診者数が少ない医療機関が選定されている場合には、その報告数は地域の発生状況と乖離します。また、産婦人科だけを定点とした場合には、男性の発生状況を反映しないことになります。

また、定点当たりの報告は、その地域の性感染症患者の時間的推移を見るのが目的であって、他地域との比較はできません。

➤ 全数報告疾患について

■対象疾患：（全数届出）後天性免疫不全症候群、梅毒およびアメーバ赤痢、ウイルス肝炎（A 型・B 型・C 型）であって感染経路が性的接触と推定されるものと感染経路不明のもの

＊疫学調査の対象とする STI 疾患の拡大の提案：多くの STI のうち、日本感染症学会「性感染症 診断・治療 ガイドライン」で取り上げられ、かつ感染症法上に規定されている疾患の追加を提案します。いずれも 4 類または 5 類であり、必要に応じて感染症法第 15 条による積極的疫学調査を行うことができる疾患です。

アメーバ赤痢（5 類全数）、A 型肝炎（4 類全数）、B 型肝炎（5 類全数）、C 型肝炎（5 類全数）

■発生届が来る前に（地域状況の理解）

- ・保健所管内の発生状況をつかんでおく：前年度の発生数を見る（例：全数届出梅毒では月平均 2 件、定点報告性器クラミジアでは定点あたり平均 2 0 等）
- ・届出医療機関別の報告数を把握（全数届出の場合〇〇医院からの届出が多い、定点報告の場合××医院は少ない、報告が全くない 等）
- ・報告内容を把握（性別、年代、泌尿器科からの女性の報告・婦人科からの男性の報告があるか（＊）等）

（＊）パートナー健診が勧められているかどうかを知ることができる

■発生届がきたら・・・・・・・・

- ・届出基準に合致しているかを確認
- ・主治医に電話で確認

【以下２点は必ず確認】

- 他の STI の有無を主治医が確認しているかどうか。確認していなければ、検査の勧め、あわせて HIV 検査の勧め（保健所無料検査を案内）

★チェックすべきその他の STI（カッコ内は検査方法）

淋病（尿 PCR）、クラミジア（尿 PCR）、梅毒（ガラス板法、TPHA）、B 型肝炎、HIV

- 二次感染防止のための指導を主治医が行っているかどうか（可能であれば、パートナー健診・治療の勧め）。コンドームの使用による感染予防についての啓発がなされるように、働きかける。（特定感染症予防指針第 2 の 2「コンドームの予防効果に関する普及啓発」）また、患者がパートナーに必要性を説明し受診に結び付ける。その結果、何らかの STI が見つければ、治療（ピンポン感染の防止）。他の STI がないかどうかを確認（上記のとおり）

- ・複数の患者発生がみられた場合は、届出医師の協力を得て、感染症法第 15 条による積極的疫学調査を実施する。

※STI 対策の展開例①

「電話での確認」は、届出医療機関との連携を深めるきっかけになります。

- ・ HIV の発生状況、STI の発生状況（病原体定点での検査結果等）、トピックス（薬剤耐性淋菌、HPV ワクチン、IDWR 性感染症関連号 等）の提供
- ・ HIV 検査案内の送付（各保健所や自治体作成分、その他 HIV 検査 MAP の紹介等）
- ・ 啓発資料の送付（STI 予防啓発資料、HIV 対策のポスター・パンフレット、等）
- ・ 患者の受診状況などで「いつもと違う」場合には連絡をいただくよう依頼する

➤ 定点報告疾患について

■定点報告が増えたら・・・・・・・・

- ・ 前年度と比較して増加しているかどうかを見る
- ・ ある定点に集中しているかどうかを見る
- ・ 地方感染症情報センターに相談する（過去のデータとの比較、近隣地域（都道府県内他保健所、など）との比較）
- ・ 真の増加かどうか：（例）熱心に診断・報告する医師が診療を始めた、定点報告が徹底された 等のバイアスがかかっていないかを見る

- ・ 真の増加であれば、定点医療機関の協力を得て、感染症法第15条により、当該者の氏名、住所を把握し積極的疫学調査を実施する
- ・ 地方感染症情報センター（地方衛生研究所）は、検査の実施について協力する
- ・ 集団発生が疑われた場合は、探知保健所は関係保健所および地方感染症情報センター（衛生研究所）等と連携して、積極的疫学調査等感染拡大防止対策を実施する

※STI 対策の展開例②

STI 対策は、単独でなく組み合わせで展開しましょう。

[組み合わせの例]

- ・ HIV 対策：検査・相談事業、予防啓発事業、エイズ予防教育
- ・ 母子保健対策：母子手帳交付、妊婦健診助成、プレパパママ教室、乳幼児健診、予防接種事業、マタニティクッキング すこやか親子 21 等
- ・ 少子化対策
- ・ B 型、C 型肝炎検査・相談、予防啓発事業、肝がん対策
- ・ 女性特有のがん検診事業

※定点医療機関アンケートの提案

定点医療機関を感染症対策の観点から選定できているところは少ないと思われます。2 年ごとに定点医療機関を依頼する際に、アンケートを実施して、どんな医療機関なのかを知ろう、という提案です。

【アンケートの項目の例】

- ・ 受診者数（例：先月の受診者数、月平均受診者数）
- ・ 受診者の内訳（例：男女比、年代別）
- ・ STI 患者数
- ・ 保健指導について（コンドームの使用、パートナー健診勧奨など）
- ・ 資料についての要望（STI パンフレット、MSM のためのパンフレット等）
- ・ STI 対策への要望
（全数届出疾患の届出義務、届出基準・発生届の検索方法等を付記しても）

地方感染症情報センターの対応（案）・・・・・・・・

■保健所への情報加工・提供・還元

保健所との連携強化（どのような情報が必要か、加工・還元の仕方）

✓ 保健所が地域に向けて情報を発信するには、次のような場合が考えられます。

- ・ エイズ予防啓発資料の一部として（6 月の検査普及月間、12 月の世界エイズデー、学校でのエイズ予防講話）

- ・思春期対策として、小中学校の保健だよりの元データ、健やか親子21関係の会議資料、養護教諭の勉強会資料
- ・プレパパ・ママ教室等での啓発資料
- ・子宮頸がん予防のための啓発資料
- ・産婦人科医会など医師会が使用する資料として
- ・検査、相談の際に受検者に渡す、窓口に設置する資料（MSMのための資料含む）
- ・感染症発生動向委員会（名称は地域によって異なる）の会議資料

✓ データの対象期間としては、

- ・多くは年報で対応可かと思われませんが、5～10年変動、月変動などが必要な場合があると思われます。

✓ データのまとめ方の例

- ・地域として増えているのかどうか、国の傾向との相違
- ・具体的な使用例を考えると、性年齢層別、疾患別の需要が高いのではないかと思います。
- ・保健所単位では報告数が少ないため、広域（県単位等）でのデータを
- ・年間の変動グラフを国の変動グラフと並べて表示
- ・疾患別の資料でも、HIV/AIDSの動向をあわせて載せる等、横断的な要素をもたせたい

■サーベイランス

必要に応じて、地域を限定した性感染症全数調査の実施。または、他地域で行われた性感染症全数調査結果を参照検討など。

■毎年開催している感染症発生動向委員会（名称は地域によって異なる）での議題として、STIサーベイランスの改善策・STI対策の強化を挙げる。会議の中で、医師会への働きかけについても検討。医師会主催の研修会のテーマとして取り上げる、等。

保健所・感染症情報センターの対応を支援する方法（案）・・・・・・・・

1) STIサイトの設置：一般市民向け還元方法でもある

- ① 疾患の理解を助けるような資料の作成・紹介・・・既存のパンフレットでもあります。
- ② 検査結果の解釈を説明した資料の作成・紹介
- ③ 対象別（若年層、妊娠可能年齢層、中高年、MSM）資料の作成・紹介・・・STIは、若年

層かつ異性間だけのものではないため。

- ④ エイズ予防情報センター内に STI 情報サイトを設置・・・自治体担当者はエイズ予防情報センターの HP をよく利用している。ここに、STI の情報サイトがあれば、もしくは、ここから STI サイトへすぐ飛べれば、利用頻度があがると思われる。
- ⑤ 国立感染症情報センターの HP に STI 情報サイトを設置・・・上記と同じ理由。感染研の HP のトップページに STI サイトへの入り口があれば、利用頻度が上がると思われる。
- ⑥ 感染症学会、性感染症学会、公衆衛生学会等関連学会とのリンク。厚生労働省 HP とのリンク等。

2) 研修の機会を設ける

- ①職員を対象とした STI 研修の企画・実施（疫学調査研修、保健指導・パートナー健診勧奨の訓練含む）
- ②STI 対策に関する教材の作成（ネット上での教育ツールなど）
- ③STI についての積極的疫学調査事例の紹介
- ④HIV 対策と従来の STI 対策を関連づけて研修を企画する